

# 歴史書が伝えるもの

## 古代地中海世界と中世西アジア世界における情報メディアとしての歴史叙述

浦野 聡 (立教大学)

10:00-10:15

論点開示

松原俊文 (早稲田大学)

10:15-11:15

記憶 (メモリア) と政治 : ローマの政治文化における歴史叙述の役割

田中 創 (東京大学)

11:15-12:15

教会史の系譜 : ローマ帝政後期における歴史叙述の伝統と変容

昼食

12:15-13:15

山中由里子 (国立民族学博物館)

13:15-14:15

歴史叙述の解体と再構成 : 中世イスラーム世界の博物誌におけるアレクサンドロス伝承

大塚 修 (東洋大学)

14:15-15:15

人類の起源を求めて : 前近代ムスリム知識人による諸民族の系譜の創造

討論

15:30-17:00

司会 : 林佳世子 (東京外国語大学) ・ 新保良明 (東京都市大学) ・ 浦野聡

11月18日 (日) 東北大学文学部第一講義室



## 共通論題：歴史書が伝えるもの—古代地中海世界と中世西アジア世界における情報発信・伝達メディアとしての「歴史叙述」

近年、「ポスト真実 post-truth」時代の到来が話題となった。大国の為政者が、多くの読者を持つマスコミを公然とフェイクニュースとなじり、オルタナティブファクトについて語る様が、テレビ画面やツイッターを通じて全世界に流され、情報操作が力を持つ時代の到来は避けられぬものとなったかのごとくである。とはいえ、情報が加工・操作され、人心収攬や動員のため効果的に用いられていたのは、近年に限った話ではない。全体主義や社会主義の国家は言うにおよばず、民主主義や自由主義を標榜する国々においてさえ、情報メディアは支配体制の道具に使われて発展してきた。それは、歴史上、それをを用いる主体の意思によっていかようにも用いる、特定の倫理や思想との結合を前提としない人心収攬や動員の道具でありつづけてきたといえるだろう。

本シンポジウムは、このような情報メディアを利用した権力・権威と社会の関係を、今一度、その根源にさかのぼって比較史的に捉えなおしてみようという試みである。中でも、同時代に存在した事象や事件の根源について伝えること、そしてまた、現在と過去の世界各地の地政学的情報を盛り込むことを意識して記述された「歴史叙述」という情報記録ジャンルに注目してみたい。歴史叙述は、神話と叙事詩に次いで古く、書かれた情報としては最も伝統的な情報発信・伝達メディアのひとつであった。あるものは安定した政治状況の中で公刊され、またあるものは大きく激動する政治情勢の中で書かれ、いずれもそれを読む人々の世界理解に影響を与え、行動や思考の指針を提供してきた。情報を収集し、加工し、発信する歴史家や歴史編纂者たちは、社会や政治にどのような働きかけを意図し、また何を達成しえただろうか。人々にとって過去や現在

の、多くの場合、直接見知らぬ事件や場所、人について知るといったことはどういう意味を持ち、また、その振る舞いにどのような影響を与えたのだろうか。具体的には、とくに、前近代の古代地中海世界と中世西アジア世界を具体的に取り上げて、それぞれの執筆・編纂意図と叙述法（すなわち、情報発信の目的と情報の取捨選択・加工・操作方法）、およびそれぞれの社会における受容や利用の在り方（すなわち、情報の、思考・行動様式への影響）について論じていただく。

西洋古代史のシンポジウムでありながら、西アジアとの比較を試みるのは、レヴァントやメソポタミア、エジプトやペルシアからの影響を受けてギリシアで形成された歴史叙述が、ローマ・ビザンツを通じて西アジアの歴史叙述に影響を与えた可能性について考えてみたいからである。とりわけ、キリスト教の確立という宗教的・倫理的な大変革を経験した古代地中海世界と、イスラームの確立・拡大というおなじ性質の大変革を経験した中世イスラーム世界の歴史叙述を比較したり、その系譜関係について考えてみたりすることは、これまで十分になされてこなかっただけに意味があろう。他方、地域毎の歴史叙述の性格の共通性や違いについても論じてみたい。そうすることで、人類の文化発展の、いまだ十分に掘り起こされていない可能性について目を開かされるかもしれない。歴史を叙述することとは、すなわち、過去に照らした自己存在（ないし自己の所属する集団のアイデンティティ）を合理化するプロセスであり、また、歴史書を公にすることは、その結果をもって、自己の属する集団内外を広く説得しようとすることである。そうした意味で、「歴史書」は、前近代のひとびとにとって、かけがえのない情報メディアだったのであり、最後には、そのメディアが、社会や世界にどのような影響を与えたのか、について、議論することができれば幸いである。